



絵をみることをあそびにする

3 展示事業

(1) 特別展事業

2025年度 春季特別展 「いわさきちひろ × plaplax あれこれいのち」

- 1. 内容

いわさきちひろは、子どもたちの姿とともに、野の草花や虫や鳥などの生きものを描いています。その絵は、小さいいのちの不思議と出会ったときのときめきや感動を呼覚まします。

今、各地で野山が切り開かれ、川や水辺がコンクリートで固められ、昔から人と自然との共生の場だった「野」が急速に失われています。半世紀前にちひろが描いていた身近な生きものの中には、絶滅が危惧されるものも多く見られます。

本展は、アートユニット plaplaxによるインタラクティブな作品を取り入れ、ちひろの絵を見ることをあそびにします。生態学の視点も取り入れ、いろいろないのちとなかよく生きるにはどうしたらよいかを、ちひろの絵を通して楽しく考える展覧会となりました。
- 2. 日時

2025年4月3日(木)～5月18日(日) 46日間
9:30～18:30 (入館は18:00まで)会期中無休
- 3. 観覧料

大人 1,000円(800円)、大学・高校生 700円(560円)、
中学生以下無料
- 4. 主催

明石市立文化博物館、ちひろ美術館
- 5. 企画協力

plaplax
- 6. 協力

鷲谷いづみ、ふじのくに地球環境史ミュージアム、兵庫県立図書館、あかし市民図書館、公益財団法人兵庫県園芸・公園協会、明石高校理数探究生物班



チラシ表



チラシ裏



■ 実績

目標人数 / 20,000人 実績人数 / 9,703人

アンケート結果

満足度 (非常に満足・満足) **89.7%** (回答率 約6.6%)

目標① みんなでつくる展覧会

ラリーイベントとクイズラリーにおいて5団体との連携を図り、実施することができたので数値目標は達成しました。また、明石公園を管理する公益財団法人兵庫県園芸・公園協会や兵庫県立図書館とはSNSを通じた連携が強化されており、今後も双方負担感なく連携ができていくものと考えられます。

目標② だれにでもやさしい展覧会

展示のテーマについて主体的に考えてもらうことを目標に、「自然と仲良くする方法」について、自分の考えをふせんに書いて貼っていただきました。展示やクイズラリーに関連し「外来種をもちこまない」「植物の種類を知る」といった回答も見られました。

目標③ 文化芸術の入口となる展覧会

数値目標として設定した滞在時間1時間程度の方54.6%(1時間以上の方の割合79.5%)となり、目標を達成することができました。今回初めて設定した指標であるため、この指標の精度が課題だとは思いますが、アンケートでも「体験型の展示もあり、おもしろかった(中学生)」「絵をみるだけではなく、「あそべる」「自然への思いを改めて考えさせられる」スタイルだったので、とてもおもしろかったです」というplaplasticの作品についての好意的なご意見が多数みられました。



■ 関連イベント

① 講演会「あれ・これ・いのち：水辺と野」

- 日 時 4月12日(土) 13:30~15:00
- 講 師 鷲谷いづみ氏(東京大学名誉教授)
- 参加者 70人(定員80人/申込93人)

② スペシャルギャラリートーク

- 日 時 4月3日(木) 10:30~11:30
- 講 師 宍倉恵美子氏(安曇野ちひろ美術館学芸員)
- 参加者 33人

③ ワークショップ「絵の具であそぼ」

- 日 時 4月26日(土) 13:30~15:00
- 講 師 当館学芸員
- 参加者 26人(定員20人/申込32人)
- 参加費 100円

④ クイズラリー「豊かな自然で明石公園の魅力UP大作戦」 (明石高校コラボ企画)

- 日 時 会期中(景品がなくなり次第終了)
- 参加者 369人(定員500人)

⑤ ラリーイベント「明石のまちなかでちひろの作品にふれよう」

- 日 時 3月22日(土)~4月6日(日)
- 参加者 45人(定員500人)
- 会 場 明石市立文化博物館、兵庫県立図書館、明石市立図書館、公益財団法人兵庫県園芸・公園協会、ジュンク堂書店





2025年度 夏季特別展 「そうぞうのかげら — 砂で紡ぐたなかしんの物語 —」

1. 内 容

明石の海の砂を使い、やさしく幻想的な作品を生み出す画家・絵本作家 たなかしん。
絵本作家としての活動20周年を記念し、アトリエのある明石の地で、初期から最新作までの絵本原画、絵画、立体作品を一堂に紹介する初の大規模展覧会を開催しました。
たなかしんは、海の砂を絵の下地に用いた独自の技法で、あたたかく包み込むような画風を確立し、画家として国内外での展覧会や壁画制作にも取り組む一方、絵本作家として、大人から子どもまで、幅広い世代の心にそっと寄り添う数多くの絵本を発表しています。
本展は、作品に込めた想いや創作のひみつにふれる章「こころのかげら」「えほんのかげら」「そうぞうのかげら」、観覧者と共に作り上げる章「みんなのかげら」の4章で構成されました。会場では、映像制作や展示デザインも手がけるアートユニットplaplast（プラプラックス）によるインタラクティブ作品、触れて楽しめる作品、ゆっくりと絵本を読めるスペースも用意し、おとなも子どもも、たなかしんの世界を体感できる展覧会となりました。
2. 日 時

2025年7月19日(土)～9月7日(日) 51日間
9：30～18：30(入館は18：00まで)会期中無休
※7月18日(金)は内覧会開催
3. 観 覧 料

大人 1,000円(800円)、大学・高校生 700円(560円)、中学生以下無料
4. 主 催

明石市立文化博物館
5. 企画協力

plaplast、アイデアデザイン製作所
6. 協 力

あかし市民図書館、明石市立天文科学館、公益財団法人明石文化国際創生財団、公益財団法人兵庫県園芸・公園協会、THE TANPENS、ピオレ明石、アスピア明石、ジュンク堂書店明石店
7. 後 援

明石市教育委員会



チラシ表



チラシ裏





■ 実績

目標人数 / 15,000人 実績人数 / 10,006人

アンケート結果

満足度 (非常に満足・満足) 92% (回答率 約7.8%)

目標①みんなでつくる展覧会 (1)

図書館や書店などに加え、今回は兵庫県内の4つのミュージアムが絵本の展覧会を通じて連携し、結果的にこれまで当館に足を運ばなかった層の来館に繋がったと考えられます。実際に、連携した他館で本展を知ったという声もあり、新たな層へのアプローチが実現できたのではないかと捉えています。また、地域に根ざしたカフェとの連携メニューも今回が初の試みであり、SNS上でも大きな反響が見られました。(紹介Instagram投稿いいね数が17000) 来館者による投稿やシェアを通じて、展覧会の認知拡大や地域とのつながりの深化に寄与したと考えられます。

目標①みんなでつくる展覧会 (2)

第4章「みんなのかげら」は、来館者の参加型の作品を設置しました。たなかしん氏による下絵に来館者が自由に色を重ねることができ、年齢を問わず、作品に触れる機会となりました。仕上げとして実施されたライブペインティングには、200人を超える来館者が集まり、目標値を大きく上回る結果となりました。

目標②文化芸術の入口となる展覧会

本展では、たなかしん氏の絵本原画・作品の展示に加え、実際に絵本を読めるスペースや詩・文章を添えた作品紹介など、来館者が身近にある絵本や言葉を導入として芸術に親しむことが出来る環境を整えました。アンケート結果では、「非常に満足」「満足」と回答した来館者が全体の92%を占め、「子どもが絵本に夢中になり、原画にも興味を持った」「添えられた詩や言葉が心に響き、芸術が身近に感じられた」といった声が寄せられました。「絵本をきっかけに展覧会に足を運んだ」「絵を見るのがこんなに楽しいとは思わなかった」といった感想から、本展が文化芸術への入り口として機能したことがうかがえます。

目標③だれにでもやさしい展覧会

- ・あかし点訳グループとの連携による、章立てパネルの点訳シートの設置
- ・動物が描かれた漆黒の触れる絵画作品5枚の展示 (動物名は点字で貼付)
- ・触れて音が出るインタラクティブ作品「カケラのカケラ」(plaplast作品)
- ・音声による読み聞かせが流れる「えほんのへや」の設置

これらの取り組みに加えて、実際に視覚障害のある来館者3組5名に担当者が解説を行いました。特に「えほんのへや」では、音楽や読み聞かせに耳を傾けながら、空間全体を楽しむ様子が見られました。また、触れる絵画やインタラクティブ作品「カケラのカケラ」に対しては、「点字で答えが書かれている為、点字が読める人にアドバンテージがあり、とても嬉しく感じた」「音と触感が組み合わせることで作品の世界に入り込めた」といった感想も寄せられ、視覚以外の感覚を活かした鑑賞体験の可能性が示されました。今後も、誰もが展覧会を楽しめる環境づくりを目指し、特別展においてのアクセシビリティの向上に継続的に取り組んでまいります。

本展を通じて、これまで博物館に馴染みの薄かった層の来館も多く見られ、親しみのある明石在住の絵本作家による展覧会をきっかけに、博物館への関心を高める機会となりました。



■ 関連イベント

① 読み聞かせ & コンサート

- 日 時 7月19日(土) 14:00~15:30
 □講 師 たなかしん氏、竹澤汀氏(シンガーソングライター)
 □参加者 115人(定員50人)

② ギャラリートーク

- 日 時 7月19日(土)・8月3日(日) 10:30~12:00
 □講 師 たなかしん氏
 □参加者 7月19日(土)・・・63人 8月3日(日)・・・79人

③ 画集や絵本の制作秘話を語る!

- 日 時 8月3日(日) 13:30~15:00
 □講 師 たなかしん氏、
 ライツ社代表取締役社長 大塚啓志郎氏
 □参加者 82人(定員80人/申込100人)

④ たなかしんさんと新聞紙で動物を作ろう

- 日 時 7月27日(日)、8月17日(日) 13:30~15:00
 □講 師 たなかしん氏
 □参加者 7月27日(日)・・・22人(定員20人/申込23人)
 8月17日(日)・・・29人(定員20人/申込29人)
 □内 容 たなかしん氏指導の下、新聞紙とセロハンテープで動物を作るワークショップを行った。

⑤ 「みんなのかげら」ライブペインティング

- 日 時 7月27日(日)・8月24日(日) 10:30~11:30
 □講 師 たなかしん氏
 □参加者 7月27日(日)・・・98人 8月24日(日)・・・202人

⑥ 絵本ソムリエサンプルパパ×理音(ハープ奏者)による音楽朗読会

- 日 時 8月16日(土) 16:30~18:00(大人向け)
 8月17日(日) 10:30~12:00(こども向け)
 □講 師 絵本ソムリエサンプルパパ氏・理音氏(ハープ奏者)
 □参加者 8月16日(土)・・・84人 8月17日(日)・・・144人

■ 館外関連イベント

① 明石公園内、アカシパークギャラリーにてパネル展の開催

- 日 時 6月19日(木)~6月25日(水) 10:00~17:00
 □協 力 公益財団法人兵庫県園芸・公園協会

② ASPIA GALLERY STREETにてパネル展の開催

- 日 時 8月1日(金)~8月12日(水) 10:00~20:00
 □協 力 公益財団法人明石文化国際創生財団

③ 明石市立天文科学館×あかし市民図書館×明石市立文化博物館コラボレーション企画「星空の下のおはなし会」

- 日 時 8月2日(土) 12:20~13:30
 □協 力 明石市立天文科学館、あかし市民図書館

④ ピオレ明石にてパネル展の開催

- 日 時 8月17日(日)~8月31日(木) 10:00~20:00
 □協 力 ピオレ明石

■ 展覧会コラボレーション商品の制作

① ダンマルシェ明石店

② マザームーンカフェピオレ明石店

■ 福祉事業所によるキッチンカーの出店

- 日 時 8月17日(日) 10:00~16:00





企画展

生誕140年 横山 蜃楼 展

—俳句と巡る四季—

2025年 5月24日(土)~7月6日(日)

(2) 企画展事業

企画展 「生誕140年 横山^{しん ろう}蜃楼展 —俳句と巡る四季—」

1. 内 容 明治18年(1885)に明石の樽屋町に生まれた横山蜃楼は、明治から昭和にかけて明石での俳句文化の醸成に貢献した人物で、明石公園には句碑も残されています。
蜃楼は大阪にて活躍した俳人松瀬青々に師事し、30歳で所属する倦鳥派の大家となるほどの俳句の才を持ち、大正14年(1925)に創刊した俳誌「漁火」は門下詩友が全国に及ぶなど、彼の与えた影響は明石だけに止まりません。また、俳人でありながら緻密なスケッチを残すなど絵を描くことも得意としました。
展覧会では、蜃楼自筆の短冊や植物のスケッチ、同門俳人の短冊などの展示を通して、蜃楼の業績を辿りました。
2. 日 時 2025年5月24日(土)~2025年7月6日(日)
月曜日休館
9:30~17:30(入館は17:00まで)
3. 主 催 明石市立文化博物館
4. 協 力 いぶき俳句会
5. 観 覧 料 大人200円、大学・高校生150円、中学生以下無料
6. 展示内容 短冊、色紙、軸作品等 約130点
書籍(句集等)



チラシ表



チラシ裏



■ 実績

目標人数 / 2,000人 実績人数 / 1,817人

アンケート結果

満足度 (非常に満足・満足) **76.9%** (回答率 約2.9%)

所感

展示期間は従来よりも伸びたにも関わらず、来館者数が伸びずに終わりました。アンケートから読み取れる原因としては、俳句に興味のある方の来館が多く、もともと興味のない方の観覧に至らなかったことが考えられます。

逆に、はじめから明石の俳人に興味をもって来館されていることから満足度は高く、俳句はもちろんのこと蟹楼の絵や文字の美しさを知ることができてよかったという声も多く寄せられました。

蟹楼は昭和60年の「生誕百年記念 横山蟹楼遺墨資料展」以降、まとまった形で作品展示がほとんどされていなかったため、生誕140年の周年に市民に向けて作品観覧の機会を作り、作家の紹介ができたことは意義のあることであったと思います。

■ 関連イベント

① 俳句対談

日時：6月7日(土) 13:30~15:00

話者：今井豊氏(「いぶき」代表)、

津川絵理子氏(「南風」顧問)

参加者：48人(定員80人/申込50人)

所感：横山蟹楼をもとより知っている人は少なく、明石の文化に興味のある方や講師の名前にひかれて参加という方が多かったようです。展示会の内容をより深く知れたとの声がよく聞かれました。

② 投句ライブ

日時：6月22日(日) 13:30~15:30

司会：今井豊氏(「いぶき」代表)

選者：堀瞳子氏(俳人協会評議員、「鳳」副主宰、「運河」同人)

常原拓氏(「秋草」会員)

参加者：25人(定員50人/申込25人)

所感：明石近郊で俳句を嗜まれる方の参加が多く、特にいぶき俳句会の会員が目立ちました。特定の俳句会には所属していないであろう参加者も何名か見受けられ、普段俳句に触れていない方にも参加してほしいという本来の目的は僅かながら達成されました。講評会では、選者だけでなく参加者もみな積極的に発言する姿が見られました。

③ ギャラリートーク

日時：5月24日(土)13:30~

6月14日(土)10:30~、13:30~(各回30分程度)

講師：当館学芸員

参加者：計10人

所感：参加者はギャラリートークを目的に時間に合わせてご来館いただいている方が半数以上という様子でした。参加人数が少ないこともあり学芸員の発言にもよく反応を返してくださいました。



企画展 明石藩の世界13 「明石で華ひらく知と美の世界 — 蛻巖・華山が遺したもの —」

1. 内容 梁田蛻巖は江戸時代中期における屈指の漢詩人として知られる人物です。蛻巖はその後半生を明石藩に仕える儒者として暮らしました。蛻巖は、幕府の儒官であった新井白石や室鳩巢らとも交流のあった人物です。画家・蘭学者として有名な渡辺華山もまた明石にゆかりのある人物です。三河国（現愛知県）田原藩士として江戸で暮らした華山は、江戸詰めの明石藩士たちと絵画サロンを通じて盛んに交流しました。本展では、梁田蛻巖の遺した漢詩や碑文から、当時の明石のすがたや周囲の人々との交流を、また、渡辺華山と弟子の椿椿山の絵画や文献資料から、華山たちと明石藩主・藩士とのあまり知られていない関係について紹介しました。
2. 日時 2025年9月20日（土）～11月3日（月・祝）
月曜日休館（10月13日、11月3日は開館）
9：30～17：30（入館は17：00まで）
3. 主催 明石市、明石市立文化博物館、
神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
4. 観覧料 大人200円、大学・高校生150円、中学生以下無料
5. 展示内容 第1章 梁田蛻巖と明石
梁田蛻巖書軸「赤石朝霧」(本立寺蔵)・
蛻巖集(明石市蔵)・神澤尚伯宛
梁田象水書簡(三木市蔵)他
第2章 渡辺華山と明石藩士たち
渡辺華山筆「春溪高隠図」(兵庫県立美術館蔵(颯川コレクション))・椿椿山筆「渡辺華山像」(複製品、田原市博物館蔵)・藤村宗禎作「地球儀」(明石市指定文化財、明石市蔵)他
第3章 明石の文人たち
石田幽汀筆「龍虎図」(瑞雲寺蔵)・円山応挙筆「神馬図絵馬」(兵庫県指定文化財、住吉神社蔵、当館寄託)・
明石藩主御書(個人蔵)他



チラシ表



チラシ裏



■実績

目標人数 / 2,500人 実績人数 / 3,296人

アンケート結果

満足度 (非常に満足・満足) 66% (回答率 約1.3%)

所感

ひさしぶりに梁田蛻巖を取り上げられたこと、あまり知られていない渡辺崋山と明石藩とのつながりや明石出身の画家石田幽汀を紹介できたことは意義があったと思います。難解な資料が多いので、もっとわかりやすい展示や解説を心掛けるべきであったと反省しています。



■関連イベント

① 講演会「梁田蛻巖と明石の人びと」

日時：9月27日(土) 13:30~15:00

参加者：31人 (定員80人/申込37人)

講師：石橋 知之氏 (神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター 学術研究員)

所感：「梁田蛻巖」の名前をほとんど知らなかった方からも、藩士や文人たちとの親交を中心によくわかったと好評でした。

② 講演会「明石藩の絵画について」

日時：9月28日(日) 13:30~15:00

参加者：15人 (定員80人/申込19人)

講師：橋本 寛子氏 (神戸女学院大学等兼任講師)

所感：講師の具体的な解説により、江戸中期~末期にかけての絵画の手法がよくわかったとの好評を博しました。

③ 講演会「明石の地球儀とその原図について

— 明石と津山をつなぐ蘭学の糸 —

日時：10月4日(土) 13:30~15:00

参加者：21人 (定員80人/申込21人)

講師：小島 徹氏 (津山洋学資料館館長)

所感：市指定文化財の地球儀の原図「新製輿地全図」の特徴や表記について、わかりやすく説明され、大変有意義であったと好評でした。

④ はじめての古文書講座

日時：10月26日(日) 13:30~15:00

参加者：38人 (定員60人/申込39人)

講師：当館学芸員

所感：今年もわかりやすかったと好評で、平日開催等を希望するお声をいただきました。

⑤ 展示解説

日時：毎土曜日(9月27日(土)、10月4日(土)を除く)

午前の部 10:30~11:30 参加者 29人

午後の部 13:30~14:30 参加者 25人





企画展「発掘された明石の歴史展 ～船上城から明石城へ～」

1. 内容 「発掘された明石の歴史展」は市内の発掘調査によって出土した資料を中心に取り上げ、そこから明らかにされた先人たちのくらしぶりを広く知ってもらう機会として開催しているものです。今年テーマを「船上城から明石城へ」とし、明石地域の中世から近世にかけての城郭から発掘された出土品を取り上げました。特に、近年船上城下跡や明石城下町跡の発掘調査が盛んに進められ、そこから出土した瓦や陶磁器類から、当時の城を取り巻く城下町の姿が徐々に明らかになってきました。最新の調査成果も含め、明石地域で展開した城の歴史を紹介しました。
2. 日時 2025年11月13日(木)～2026年1月12日(月・祝)
月曜日、年末年始(12月29日～1月3日) 休館
9:30～17:30(入館は17:00まで)
3. 主催 明石市
4. 共催 明石市立文化博物館
5. 実施体制 発掘された明石の歴史展実行委員会
委員 春成秀爾、丸山 潔、高橋明裕
6. 観覧料 大人200円、大学・高校生150円、中学生以下無料
7. 展示内容 大蔵院境内 和坂構居 船上城跡 明石城跡 明石城武家屋敷跡他
- (1) 中世城郭
- | | |
|---------|----------------|
| 1 福中城 | 福中城跡出土土器・陶器 |
| 2 脇村構居 | 脇村構居跡出土陶磁器 |
| 3 福谷城 | 福谷城出土土器・陶器 |
| 4 端谷城 | 端谷城出土鬼瓦・甲・陶磁器 |
| 5 枝吉城 | 枝吉城跡出土土器・陶磁器・瓦 |
| 6 蟹坂構居 | 蟹坂構居跡出土陶磁器 |
| 7 西岡構居 | 西岡構居跡出土陶磁器 |
| 8 大蔵谷構居 | 大蔵院跡出土遺物 |
| 9 魚住城 | 魚住城跡出土土器 |
| 10 船上城 | 船上城跡出土瓦、土器、陶磁器 |
- (2) 近世城郭
- 明石城
- | | |
|---------|-----------|
| 1 明石城 | 鯨瓦・鬼瓦・陶磁器 |
| 2 明石城下町 | 土器・陶磁器・瓦 |
- (3) 近代
- 舞子砲台



チラシ表



チラシ裏



■ 実績

目標人数 / 4,000人 実績人数 / 5,716人

アンケート結果

満足度 (非常に満足・満足) 82% (回答率 約6.4%)

所感

この度は、テーマが城ということもあり、市外からも含め多くの観覧者がありました。

アンケートからも、自らが住む地域の歴史を知ることができ、大変よかったという意見が多く、この「発掘された明石の歴史展」がシビックプライドを醸成するうえで、大きな効果を発揮する企画になっていることを再確認しました。

展示物では、アンケートから神戸市から借用した甲、明石城の鯨、船上城跡の発掘品、明石城下の井戸・水道が特に観覧者の目に留まったようです。

期間中、ボランティアの方に解説してもらいましたが、やはり、解説をしてもらって見学したことでさらに理解が深まったとの感想も多かったです。

■ 関連イベント

① 講演会・シンポジウム

日時：12月13日(土)

演題・講師：「赤色立体図からみた明石の城」

講師：永恵裕和(兵庫県立考古博物館)

「明石城築城以前の上ノ丸台地」

講師：春成秀爾(国立歴史民俗博物館名誉教授)

「文献から見た明石の城郭立地」

講師：高橋明裕(立命館大学非常勤講師)

シンポジウム：

パネラー 永恵裕和・春成秀爾・高橋明裕

コーディネーター

丸山潔(明石市文化財保護審議会委員)

参加者：80人(定員80人)

② 講演会

日時：2026年1月10日(土)

演題・講師：

報告：「船上城跡の発掘調査成果から」

報告者：稲原昭嘉(明石市)

講演：「CG再現で考える明石城の構造」

講師：本岡勇一(城郭研究家)

参加者：77人(定員80人)



企画展「くらしのうつりかわり展 —人と道具のあゆんできた道—」

1. 内容 毎年恒例の昭和のくらしを振り返る展覧会「くらしのうつりかわり展」、今回は「人と道具のあゆんできた道」と称して、明石とその周辺では明治時代からどのような歴史や経過があったのか、これまでの道のりを振り返って紹介しました。約150年前から、日本は近代化の道を進んできました。電灯がともり、鉄道が走り、小学校ができるなどの生活と制度がはじまり、今に続いています。本展では、今までの総集編とし、昨年好評をいただいた多聞新八氏の絵とともに、明治時代から昭和時代までの電気やガス、水道の普及や道路・通信などの整備と、それによりどのように道具や生活がうつりかわってきたのかを展示しました。変化し続ける世界のこれからの姿を考えるきっかけとなることを企図しました。
2. 日時 2026年1月20日(火)～2026年3月15日(日)
月曜日休館(2月23日(月・祝)は開館)
9:30～17:30(入館は17:00まで)
3. 主催 明石市立文化博物館
4. 協力 兵庫県立図書館、あかし市民図書館
5. 観覧料 大人200円、大学・高校生150円、中学生以下無料
6. 展示内容 生活道具 約100点



チラシ表



チラシ裏



■ 実績

目標人数 / 10,000人 実績人数 / 7,484人

アンケート結果

満足度 (非常に満足・満足) 95.4% (回答率 約1.1%)

所感

今回は明治時代から昭和40年代頃までを、分野ごとに時代の流れと出来事を示して比較しやすく展示することを心掛けました。また、子どもにも勉強としてだけではなく楽しんで見てもらえるように、空間を再現することとできるだけ使い方が分かりやすくなるよう立体的な展示を目指しました。アンケートや実際の来館者対応からおおよそ成功できたのではないかと思います。

また、今回は意識して小学校の団体見学时に子どもたちに家族でまた来館してほしい、出前授業の時にぜひ博物館で実物の展示を見に来てほしいと呼び掛けたところ、アンケートや紙芝居のイベント等で来館につながったことが分かりました。子どもにも見たいと思ってもらえる展示やイベントになったと思うと嬉しかったです。

■ 関連イベント

① おっちゃんの紙芝居

日時：2月1日(日)、15日(日)、21日(土)、3月7日(土)
いずれも14:00~

参加者：約260人(定員 各回40人)

演者：阿部 元則氏(紙芝居師)

所感：整理券配布30分以内に定員をオーバーしてしまい、体験学習室に余裕をもって入れる人数で入ってもらいました。列に待機しているお客様を途中で入場禁止にするのが難しく、子供の参加者に直接床に座る、畳の部分にも座ってもらうなどで対応しました。参加者の皆様からは楽しかったという声をたくさんいただきました。

とくに学校見学で紙芝居を体験した子供たちが友達同士家族そろっての参加が多いように感じました。新聞とミニコミあかしの取材があるなど、大盛況でした。

② 昭和ノスタルジーコンサート&朗読「音色とことばでたどる昭和の記憶」

日時：2月14日(土) 13:30~(1時間30分程度)

参加者：38人(定員 40人)

演者：中村 祐子氏(オルガン奏者)、あかし市民図書館(朗読・本紹介)

所感：子どもたちはリードオルガン自体が珍しく感じたようで、オルガンの動きに熱心に見入っていました。参加者は大人や高齢者が多く、懐かしい曲や子ども時代を思い出させる本の朗読に熱心に耳を傾けているようでした。例年くらしのうつりかわり展は子どもをメインターゲットにしたイベントが多かったのですが、今年度は幅広い層にイベントを楽しむことができました。

③ ワークショップ「足踏み式ミシンを使って布を縫ってみよう」

日時：2月28日(土) 10:00~12:00、13:00~16:00

参加者：10人

所感：足踏みミシンを動かすまでは、見学者が多くいましたが、実際に針をつけて巾着を縫うまでの作業をしたのは子どもが10人程度でした。初めてミシンを触る子どもがほとんどで、親も「家にミシンがあるが子どもには触らせてなかった」という意見が多かったです。体験後は「楽しかった」「貴重な経験をさせることができて良かった」と親子ともども好評をいただきました。

④ ギャラリートーク「昔の生活を聞いて、体験してみよう！」

日時：3月15日(日) 10:30~、13:30~

参加者：合計35人

所感：特別展示室でのトークは大人が多く、ロビーでの台秤やミシン体験は子どもが多かったです。とくに大人は自身の体験を各々お話しされ、一方的なトークというより皆で対話しながらの見学になりました。

(3) その他の展示事業

1. 常設展の変更

スポット展示		内 容	期 間	展 示 資 料	目 的
No.	タイトル				
1	戦後80年 一戦時下の明石一	明石空襲と防空体制について	6月12日～ 9月23日	焼夷弾・防火弾・ 防空演習の映像	戦後80年の展示
2	ちょっと昔の 夏の生活道具	昭和30年代くらいまで使用 された夏の生活道具を展示	7月19日～	飯籠、弁当行李、カンカン帽、団扇、扇子、 膝枕、陶枕、蚊取り線香、蚊やり豚、 ハエたたき、マット式電気蚊取り器、 ぜんまい式蚊取り器	特別展目当ての来館 者に昔の夏の道具を 知ってもらう
3	明石藩展関連展示	企画展の内容にあわせて関連 作家の作品を展示	10月15日～ 12月15日	谷文晁「富士図」、 松平「富士図」	企画展に関連する 館蔵作品の紹介
4	明石藩主の年賀状	明石藩主松平斉韶と慶憲の 幕府(将軍)への年賀(挨拶) 状展示	12月16日～	松平斉韶書状、 松平慶憲書状	所蔵者からの要望と 季節に応じた展示
5	上田陽愷作品	上田陽愷の春にちなんだ 作品の展示	2026年 3月19日～	上田陽愷「春光游鯉」 「春宵」「桃と燕」	季節にあった作品 の展示

2. 第8回 あかし若手アートチャレンジ

1. 日 時 2025年9月28日(日)～10月5日(日) 7日間
9月29日(月)は休館
2. 主 催 明石市立文化博物館
3. 共 催 公益財団法人明石文化国際創生財団
4. 協 賛 ターナー色彩株式会社
5. 協 力 デッサン子午線、福本謹一氏(兵庫教育大学名誉教授)
6. 参 加 校 兵庫県立明石高等学校、兵庫県立明石北高等学校、
兵庫県立明石南高等学校、兵庫県立明石西高等学校、
兵庫県立明石城西高等学校、兵庫県立明石清水高等学校、
兵庫県立錦城高等学校、明石市立明石商業高等学校、
神戸朝鮮高級学校、神戸学院大学
7. 出 品 作 品 平面 88点
立体 6点 合計94点(うち具象67点、抽象27点)
8. 関連イベント ギャラリートーク
9月29日(日) 参加者 午前:35人 午後37人
受賞者発表・講評会
10月6日(日) 参加者 約80人
9. 実 績 目標人数 1,000人
来館者数 806人
アンケート結果 満足度(非常に満足・満足)100%
(回答率約5.4%)

10. 所 感

出品者や来館者のコメントを公開するコーナーでは、「目の中にしっかりと自分の…〔中略〕細かく描くことが苦手なので参考にしたいと思います。」や「自分にはないアイデアがすごく良かったです。〔中略〕自分もこのような面白く観ることができる絵を描きたいと感じました。」など、出品者によるコメントが見受けられ、出品者同士が学校の垣根を越え、作品を介して互いに好影響を与えていることがうかがえました。

また、来館者アンケートでは、「来年もぜひ開催してください。」、「みなさんの個性があらわれていて、非常に楽しい展示でした。また来年も期待しています。」、「明石市内の高校の美術部・美術科の取り組みが知れていい内容だと思います。」などの本展覧会に対する賞賛・激励の感想を多くいただいております。あかし若手アートチャレンジが地域に根差した展覧会として支持され、今後の継続的な開催を切望されていると感じました。来年度も出品者にとっても観覧者にとっても有意義かつ魅力的な展覧会となるよう、各校・協力者と連携しながら運営していけたらと考えています。

